津軽三味線奏者・民謡家

松田 隆行 氏

テーマ　「スキル」は未来を変える

●開催校　青森県立八戸高等支援学校
●日　時　令和７年10月21日 9：15～10：05
●参加者　普通科・産業科　178名

START

続けることの大切さ

まずは、セミナーのテーマとなっている「スキル」についてのお話から始まりました。

松田さんにとっての「スキル」は三味線。
三味線で人生が変わったという松田さんのお話を聞きました。

最初は「かっこいい音を出してみたい」という想いから三味線を始めたとのこと。
しかし、最初のころは音も出ず、手や腕も痛くなることもあり、
「無理かも」「やめたい」と思うことが何度もあったそう。

それでも、師匠の「上手くなるには、やめないこと」という教えに、
毎日少しだけでも三味線を弾くようにしたそうです。

続けるうちに、弾く音が変わっていくのが自分でもわかるようになり、
気持ちも「出来ない」から「出来るかも」に変化していったといいます。

自分でも上達を感じ、大会に出るようになった時も、
最初のころは緊張で思うように演奏できなかったそう。
それでも「前回より良かったから来年こそはきっとうまくできる！」と
大会に出続け、10年後に初優勝。
そこから3連覇し、殿堂入りしたとのこと。

練習も大会出場も、やめなかったからこその結果だと
松田さんはお話しくださいました。

スキルについて

「スキル」で
・自信がつく
・仲間が増える
・自分を成長させることができる
と松田さん。

「人の話を最後までしっかり聞ける」「人を励ますことができる」
「丁寧に掃除ができる」など、普段何気なく行っていることも
その人の「スキル」になり得ると言います。

「それでも自分には「スキル」が何もない」と思ってしまう人は、
・どんなに小さなことでも続けてみる
・少しでも興味あるものに触れてみる、始めてみる
の2点を意識して生活してみてほしいとお話しくださいました。

「失敗するということは、その数だけ良くなれる可能性があるということ。
失敗をおそれずにどんどんチャレンジして、「スキル」を見つけてほしい。」
という言葉でお話は終了しました。

三味線の演奏

松田さんのお話が終わったあと、三味線で4曲演奏いただきました。

〇八戸小唄
　昭和6年に八戸をPRするためにつくられた歌。

「歌詞に、葦毛崎展望台などの八戸市の名所や特徴が織り込まれているため
　しっかり聴いてみるとおもしろい」と松田さんは解説しました。

　松田さんの声と三味線の演奏に会場中が聴き入っていました。

〇俵積み唄
　民謡愛好家からすると、「南部民謡といえば」で挙げられるのがこの歌だそう。
　米を俵に入れ、積み上げる際の作業歌。

　ここで、松田さんから手拍子をしてほしいと生徒のみなさんへ
　お願いがありました。
　手拍子にもコツがあり、民謡では手を打った際、
　少し手を揉むような感じで行うといいます。

　生徒は教えられたとおりに手拍子で演奏に参加。
　演奏後、素晴らしい手拍子に松田さんもうれしそうでした。

次の2曲は、曲引きを演奏していただきました。
曲引きとは、歌の前奏部分のことで、歌い手を奮い立たせるためのもの。
アドリブを組み込むこともあり、曲引きで三味線の技術を競うようになったとのこと。

〇あいや節
この曲は結婚式や子供が生まれたときなど、おめでたい席で歌われる歌。
途中に少し悲しい雰囲気のメロディが流れるが、娘を嫁に出す、
親の涙を表現しているとのこと。

〇じょんがら節
全国的に有名な曲。
松田さんはこの曲で人生が変わったそう。

この曲でセミナーは終了。演奏後は大きな拍手に包まれました。

松田さん、ご講演ありがとうございました！

END